

最優秀賞

神奈川新聞社長賞

私の右腕

横須賀市立桜小学校

四年 木次谷

藍

私は一才の時に病気になる、二才の時に右腕を手術しました。それで、右腕のひじから下がありません。右腕が使えないと不便なことや嫌なことがあります。

不便なことは、食器を持ちながら食べることや、メモを持ちながら書くことができせん。洋服を着ることが人より時間がかかります。難しいことがたくさんあるけど、学校では先生が手伝ってくれたり、友達ができないことを一緒にやってくれます。家だと、お母さんや家族が手伝ってくれます。みんなが協力してくれるから、私は毎日普通に生活ができています。先生、家族、友達には本当にありがとうと言う気持ちでいっぱいです。特にお母さんには、私が病気になる時一番近くにいてくれたし、私は本当にいい人達に恵まれたなと、思います。

でも、嫌なこともあります。知らない人にコソコソ腕のことを話されたり、ずっと腕をのぞかれたり、「あの子腕ないかわいそう」と言われたこともあります。大人に言われることもあります。悲しくなるけど、優しい言葉をかけてくれる人もいます。

昔、私が小さいころ会ったおばあさんに「あなただけのすてきな宝物の腕ね」と言われたことがあります。私が小さい時の話で覚えていなくて、お母さんからこの話を聞いた時にこんなあたたかいことを言ってくれる人もいるんだと、とてもうれしい気持ちになりました。そんなあたたかいことを言ってくれる人が少しでもいるだけで、自分だけの宝物の腕を好きになれる。私もそのおばあさんや先生、友達、家族のやってくれたように困ってる人、自分みたくにどこかが不自由な人、いろんな人の手伝いをしたいです。そして、優しい言葉をかけられる人に私もなりたくです。